

## 「内在する罪の力」

(ローマ7:7-25)

## 一、罪から救われるために

事の発端は、神によって創造された最初の人(アダム)にありました。神は人(アダム)を、自分で決断して生きて行くものとして造られました。それは、アダムの子である全人類にも言えることです。それほど大きな自由を、神は人(アダム)に授けられました。もし人(アダム)が「神、【主】よ。私はあなたにお従いしたいのです」と決意をして、神である【主】を慕い求め続けたら、神はどんなにか嬉しかったことでありましょう。なぜなら、自由意思を持った人間が神にお従いしようとしているわけですから。

こういうわけで、ユダヤ人もギリシア人も、すなわちすべての人が罪の下もとにあります。この世に生を享けて生まれてきた人は、みな罪人です。言い換えるなら、本来の人の姿ではなく、ゆがんではいるのです。こうして、個人差はありますが、神の御意思に反することを思い、行つのです。この、人間に罪がある状態を救うのは、主イエス・キリストだけであるというのが、聖書が語るメッセージの中心です。すなわち、私たちの罪が赦されるために、罪のない御子イ

エス・キリストが、私たちが受けなければならぬ聖なる神からのさばきを受けてくださった、と信じ、受け入れることによって救われるというメッセージです。それ以外に、罪から救われる方法はありません。それにしても、アダムから主イエス・キリストまで、何と時間がかかったことではありませんか。

## 二、律法の役割と限界

罪の問題が解決されるために、こんなにも入り組んだプロセスが必要だったのでしょうか。旧約聖書を見る限り「必要だった」としか、言えません。

ローマの教会のユダヤ人キリスト者たちは、キリストを信じた後も律法を、すなわち旧約聖書を大切にしています。当然と言えば当然です。一方で、異邦人キリスト者たちはどうだったのでしょうか。律法についての知識、すなわち旧約聖書についての知識は詳しくなかった、と受け取るのが合っていると、思います。ですが、罪の問題が解決されるための歴史を思い起こすなら分かりますように、旧約聖書の教えは異邦人キリスト者にとっても必要でした。もしも教会が、「旧約聖書は必要ありません。新約聖書だけで十分です」と決めてしまふなら、たいへんに薄っぺらい考え方になってしまふことではありません。旧約聖書は、ローマの教会の異邦人キリスト者たちにも必要でした。7節

をご覧ください。今それでは、どのように言うべきでしょうか。律法は罪なのででしょうか。決してそんなことはありません。むしろ、律法によらなければ、私は罪を知ることにはなかつたでしょう。実際、律法が「隣人のものを欲してはならない」と言わなければ、私は欲望を知らなかつたでしょう。と。律法によって、すなわち旧約聖書によって、人の罪はどのように始まったのかを知ります。また罪が赦されるためには、指定された動物を、犠牲にして献げなければならぬことを知ります。それによってイスラエルは、代々に亘って罪の赦しを受けることの重みを知り、ひいては自分たちの罪を贖うのが、どれだけたいへんであるかを、身をもって学びました。ですが、律法の教えは、人を罪から解放することはできませんでした。パウロが語ったことばに聞くなら、律法の役割は、自分がいかに聖なる神から離れているかを知ることだからです。ですがユダヤ人は、律法を一所懸命に守ろうとしました。結果ユダヤ人は、律法を授かったことによって満足し、本来のあるべき姿にはなりませんでした。律法の主旨を誤って受け取り、「自分たちは律法を守っている」と自負し、高慢になってしまったからです。

## 三、罪の問題の解決

使徒パウロのことばに耳を傾けます

と、人が罪から解放されるためには、人間の側からの努力だけでは不可能であることを、改めて教えられます。そもそも律法は、人に罪があることを教える働きをしますが、人を罪の問題から救うものではありませんでした。ところがユダヤ人たちは、律法を守ることができたと思ふ心を持ってしまいました。結果、高慢になってしまいました。それは、全く的外れな受け止め方でした。ユダヤ人が、律法によって高慢になり、ますます神の御意思から離れてしまった理由は、「罪」が何たるかが分からなかつたからです。パウロが自分の本当の姿を知つたのは、すなわち神から離れており、罪人のかしらであると知つたのは、主イエス・キリストと出会つてからでした。18節をご覧ください。今私は、自分のうちに、すなわち、自分の肉のうちに善が住んでいないことを知っています。私には良いことをしたいという願いがいつもあるのに、実行できないからです。と。ここでパウロが語っている《私》とは、自分自身であり、同時にすべての人です。パウロは、主イエス・キリストと出会つたときに、罪が分かつたのです。自分がどうしようもない罪人であることが分かつたのです。神の御思いから遠く離れている、どうしようもない人間であることが分かつたのです。同時に、主イエス・キリストによる救いが分かつたのです。